

『会社四季報』の読み方基礎知識

会社研究のポイント

STEP

『会社四季報』から将来性を
探るには、ポイントがある

① 社歴と平均年齢

会社の設立年月と平均年齢とを比べてみよう。一般に、社歴が長いほど平均年齢も高くなるが、社歴の割に平均年齢が若い会社は、これからまだまだ伸びる企業といえる。また、平均年齢が若い会社は、それだけ出世も早くなることも予想できる。

平均年齢は業種によっても違うので、比較は同業種間です。

② 支店・営業所・工場など

いずれは自然が豊かな場所に住みたいとか、海外勤務を経験してみたいなど、将来のライフプランを考える上で、その会社がどんなところに事業所を構えているのかにも注目したい。とくに技術系では、職場となる工場や研究所は本社から離れたところにある場合が多いので、転

<p>【資本異動】 資本異動 異動方法 新発行済株式数 (単位:万株)</p> <p>転換社債・ワラントの発行年月、発行額、転換・行使価額</p> <p>東証 高値 安値 49~96 株価期間高安 97 (高安記録した年) 5 年間高安 記録した月 99.1~11 単位:円</p> <p>高値 安値 万株 99. 7 8 9 株価期間高安 10 上高 11</p> <p>調整1株益 単位:円 ROE 株主資本利益率(%) (予想) 含み損益 単位:百万円 最高経常(利益) 単位:百万円</p> <p>【業績】 売上 営業利益 経常利益 利益 1株益 1株配 単位:百万円 単位:円</p> <p>中 中間決算 連 連結決算</p>	<p>【資本金】 日付(新済株式) 単位:千株 【総資産】 額 @単位株式数 【株主資本】 株主資本比率(%) 【有利子負債】 1株当株主資本(円) 【分割原資】 単位:百万円 【金融収支】 単位:百万円 【金融収支】 単位:倍 (分割余力) 単位:倍 <該当する本中決算期></p> <p>【株主】 @単位株主数 年月日 上位の大株主名と持株数(同比率) 単位:千株(%) <外国> <浮動株> 外国人持株数(比率) 浮動株比率 <投信> <特定株> 投信持株数(比率) 少数特定者持株比率 【役員】 (会) 氏名(社) 氏名</p> <p>【本社】 本社所在地と電話番号 【事業所】 支社、支店、営業所などの主要事業所の所在地、数、面積など 【従業員】 カッコ内年月の従業員数と平均年齢 【証券】 上株式上場市場 【銀行】 主な取引銀行 【設投】 設備投資額 【償却費】 減価償却実施額: 今期予定(前期実績) 単位:億円</p>	<p>証券コード (株) 社名</p> <p>【特色】 事業内容 系列関係 業界地位など 監査法人名 【事業】 売上げ構成・単位% 輸出比率(決算期) 【本文】 後半は設備投資、新商品などの語材に重点</p>
--	---	--

居の必要性も読みとることができ。

③ 業績の推移

売上高や経常利益、税引き後利益は企業規模や経営成果を判断する基準として最も重視される項目。ただその数字を眺めるだけではなく、対前年度成長率を算出してみよう。

また「00・01予」などと太字で示された数字が記載されているが、これは四季報編集部が企業取材を通して、その決算期に見込める売り上げ、経常利益などを予測した数字で、客観的業績見通しとして信頼できる。この予測は、そのまま、会社の成長力を判断できる貴重な数字。直近の決算期の数値と比較して、その伸び率を計算してみよう。

④ 従業員1人当たり売上高

同業他社との間で企業のもうかり具合を比較するなら、売上高を従業員数で割った(従業員1人当たり売上高)を見るという。1人当たりの売上高は高い方が

よいが、逆にいえば、生産効率のよさは社員一人ひとりの負荷が多いこともあり得る。これに関しては、実際の労働時間、残業の多寡などのデータを調べることは難しいので、同業他社の人やその会社に入入りしている人などから情報収集するとよいだろう。

⑤ 新規事業の内容

企業の将来性は、産業構造の変化に対応できるかどうかにかかっている。企業戦略の項には、新製品開発や設備投資の動向など、将来を見据えた企業の動きがコンパクトだが的確に示されている。その内容が時流に沿ったものであれば、その企業は将来性があるといえる。もちろん、前段階として、読み手の側が時代のトレンドに予備知識を持つておくことが必要なのはいうまでもない。

⑥ 自己資本比率

自己資本比率は、株主資本額を総資産で割ったもので、「株主資本」欄のカッコ内に記載されている。これは会社の安定度を見る重要な指標となる。比率が高いほど借金が少ないことを示しており、その分支払い利息は少なくて済み、経営にゆとりが生まれる。一般には自己資本比率が10%を切るとあまり健全でないといわれている。一応の目安としては、30%を超えたら健全企業、40%以上なら優良企業と認識するとよい。

無名の優良企業を見分ける術

景気後退の波を受け、大企業は軒並み

業績ダウン。加えて、大量解雇、賃金カットなど、かつての大企業は優良企業の図式は崩壊寸前にあるといえよう。大企業に入ることが悪いとはいわないが、現時点での会社の規模や知名度だけで判断しては、優良企業を見逃すことになりかねない。かくれた優良企業を探し出す方法もあるものだ。

企業情報で比較するならば、まず経常利益を見ること。一定期間(3〜4期)、安定して伸びている企業は優良と見なしやすいだろう。ただし、急激なカーブを描いて伸びているところは要注意。バブル全盛のころは、ある年だけ異常なほどに経常利益が跳ね上がり、翌年に倒産という会社が数多く存在した。過去3〜5年間の数字は調べておきたい。

会社の規模や売上高は小さくても、限定市場の中で業界トップにいる会社は、優良企業と見なすことができる。一般的には社名が知られていないケースが多いので、業界団体に問い合わせるといいだろう。

あまりなじみがないが、財務省が筆頭株主で経営コンサルティング業務もしている特殊法人東京中小企業投資育成株式会社が資本参加している中堅中小企業も、将来性のある有望格としてとらえることができる。情報は、『帝国銀行会社年鑑』『東高信用録』や『会社四季報・未上場会社版』内の株主欄で、東京中小企業投資育成株式会社を拾い上げていく方法が考えられる。

業界全体ではなく、企業独自の情報を見る

30年を超える超ロングセラー商品を持

っている企業の安定感も見逃せない。単一の商品が売れ続ける限界は30年といわれており、「企業30年寿命説」の根拠ともなっている。その説を覆すような材料を持っている企業ならば、優良企業としてのポイントは高いということだ。

コスト削減、人員整理が叫ばれるこの時期に、採用者数を増やしている企業もある。

にないノウハウを持った海外企業の進出が拡大していくと考えられる。最後に、「〇〇業界は不況だ」と聞くと、その業界内の全企業が危機的状況にあると考えるのだが、必ずしもそうではないことに注意。深刻な業界にも、探せば確実にシェアを広げている会社はある。その意味からも「この業界はダメ」という見方ではなく、個々の会社で将来性を判断した方がよい。

履歴書を送るときに役立つ郵便料金表

市販の履歴書(開いてB4、2つ折りでB5サイズが一般的)を

(1) 折りたたんで一般の封筒(長さ20cm程度、幅9cm程度)に入れ、送る場合

→定型郵便物扱い 80円(重さ25gまで)
90円(重さ50gまで)

(2) 2つ折りの状態(B5)のまま封筒に入れ、送る場合

→定型外郵便物扱い120円(重さ50gまで)

※大きさが定型郵便物の規定以下であっても、重さが50gを超えとすべて定型外郵便物として扱われる。

※定型郵便物の大きさ

長さが14cm~23.5cm

幅が9cm~12cmの長方形で、厚さが1cmまでのもの

(3) 速達で送る場合

→速達料金270円(250gまで) + 郵便料金

※速達料金だけだと料金不足になるから注意!

(例) 市販の履歴書を折りたたんで一般の封筒に入れ速達で送る場合(重さ20g)

速達料金270円 + 郵便料金80円 = 350円